

平成29年度 第3回 大阪府立豊中高等学校 学校協議会

日 時 平成29年12月15日(金) 16:30~18:40

出席者 協議会委員 山崎 彰 越智 克司 増田 敬彦 杉本彩二郎 大野 俊介
岩本 宏司
校 長 平野 裕一
事務局 藤井 秀雄、高山 泰司、上林 卓也、朝倉 淳

次 第

1. 校長あいさつ 平野 裕一校長
2. 会長あいさつ 山崎 彰会長
3. 協議・報告

(1) 京大サイエンスフェスティバル生徒発表リハーサルについて見学

明日、本校生徒が発表する「ミドリムシの正の光走性」を見学。

(2) 平成29年度 学校教育自己診断結果について

10月中旬に生徒、保護者及び教員を対象に学校教育に関するアンケートをそれぞれ実施しその調査結果を昨年の数値と比較しながら説明報告。

今回は新たにいじめについての項目を追加した。

【委員からの意見】

○親子との間のコミュニケーションが大事でこれが改善されないと数字は上がってこない。

○大学では、近年オープンキャンパス、入学式、卒業式などの保護者参加が多く、大学でも常に保護者向けの説明を意識している。子供をどう育てるか、どういうフィールドでやっていくかを意識したらよい。

○先ほどの自習室のアンケートも、数字に反映されていればぜひ一年実験してみて、これが改善されていけば生徒から喜ばれているということで、その視点で着手してはどうか。

○生徒の進路指導の項目の「将来の進路や生き方について考える機会がある。」において2年生の数値が落ちて3年生でまた上がる傾向だが、おそらく2年生は部活動が中心であり、短期的に大学受験をどう勉強するかも大事だが、生徒が長い目でみてどういう生き方をするかを考えることが大事である。

例えば以前は廃校寸前とまでいわれた品川女子学院が、今では超人気校に変わったのだが、「28プロジェクト」を実施し、28歳の時に自分はどう生きていきたいかを目標を立てさせて生徒が自発的に勉強するようになった。

やはり自分で進路を切り拓く、考えさせることが大事で2年生の時に将来に向けた自分

というものを考えさせるプログラムを少し入れていったらよいのかなと思う。

生徒の学習の項目で「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある。」について全国学力学習状況調査で点数だけでなく学習態度についての項目があるのだが、公立と私立の点数を比べたら全体の平均の点数は私立の方が高いが、学習態度についての項目は圧倒的に公立の方が高く、これは非常に大事だと考えている。

今後大学入試制度が変わり生徒に求められることは進学突き詰めではなく、自分で考える力をしっかりと育成した生徒は将来必ず伸びるし、大学を卒業した時に就職に必ずこれが生きていくので、このことを学校は考えてほしいことが希望である。

授業改革で高校に求められるおり、中学校も授業研究を熱心に取り組んでおり、年10回程程度教員が自分の授業を公開している。共同的な学習として、一人ひとりで考えて班でシェアする授業を行っている。

これによりかなり授業内容が充実してきたので、これからは高校も求められていくことになる。

⇒学校としては保護者に対し PTA と連携しながらできるだけこまめに情報発信していくかを3学期に考えていきたい。

⇒本校では、2年生は部活動が一番メインであり、その一方では課題研究の実験やフィールドワークなどペーパーだけでなく、生徒自ら結論に導けるということで、将来の学びにつなげていけるよう考えている。

(3) 大学入試制度変更に伴う新入生への対応について

■大学入学共通テストについて説明。

■豊中高校での対応について説明。

(4) 頭髪指導に関するアンケート調査の公表について

教育庁教育振興室高等学校課の調査結果について説明。

本校の校則は、「頭髪について高校生として品位を失わないこと。」のみを記載している。なお、品位を失うような頭髪の生徒に対して懲戒はないが、生徒指導の中で注意している。

校則については5年前に現状に合わせてものに見直した。

本校で生徒指導に力を入れているのが遅刻指導であるが、授業第一主義をとっており遅刻を繰り返す生徒には、30分早朝登校を課すことになるが授業を受ける前に自習を行い、脳を活性化させた状態から1限目の授業に臨めることを目的に生徒指導している。

学校教育自己診断結果の生徒アンケートで先生の指導は、8割の生徒が納得している部分があると思っている。また、保護者アンケートの生活指導面で学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っていることについては、今年は5割を切っているが本校生徒は常識的な学校生活を行っており、問題を起こす生徒がほとんどいないため、保護者への生活指導の連絡をすることがほとんどないことの数字であると思う。

(5) 1年間のまとめ、提言について

今回に限らず年度途中であるが、委員に1年間を振り返り、本校に対する苦言も含めた提言を求める。

○アンケート結果でポイントが伸びているところはいい。

先ほども発言したが、進路を切り拓くことが大事であり、特に2年生には力をいれてもらったらいと思うし、学校にはさらに推し進めてもらいたい。

○進路説明会については同窓会も支援しているが、現在は中学生から行っており、やはりできるだけ早い時期に世の中の情報を、次にどんな受け皿があるのかなど、生徒自身が興味を持たすようにしてほしい。

○生徒と保護者に対して校長ブログ等を使った情報発信を行うことが大事である。

また、情報が取れない人には別途の方法を考え、発信して行ってほしい。

○アンケート結果を見ると特に入試制度変更による英語試験の前倒し、対応性のある授業、高校生活を体験する機会を与えることによって、むしろ目的が絞られて生徒の意欲が湧いてくるのではないかと思う。

難しいかもしれないが勉強だけでなく、できるだけ充実した高校生活の体制をとっていただきたい。

○生徒への相談は、担任に限らずクラブ顧問の先生でいろんな大人の意見を聞いてもらった方がよく、PTAとも同様でいろんな方がいるので、さらに充実してほしい。

○保護者アンケートで家庭への連絡について若干低いのが、要因は不明だが男子生徒と女子生徒で割合があるかもしれない。特に男子生徒はあまり家庭で話をしない傾向がある。

担任以外にも気軽に相談できる先生がいるという項目は、ちょっと低く、先生に相談することは少ない。

学年が離れるとどうしてもコミュニケーションがとりにくい点があるのではないか。このような点で、生徒があいさつしても返してくれないところにつながっているのではないか。

○私立は学校の特色があるためなのか、学校アピールが上手くはっきり打ち出している。公立学校側は謙遜もあるかもしれないが、私立に比べ学校アピールが弱い。

公立高校は地域と密着していて、出身中学校の生徒の高校生活の情報交換が出来たりと、地域を大事にしているから、情報提供についてさらに力を注いでほしい。

○働き方改革であるが、中学校教諭も同じで、やはりこれからは長時間労働している教諭の健康面に目を向けて学校経営してもらいたい。

○SGHが中学生に伝わっているのか。

⇒本校では、中学生に理科実験を行うスーパーサイエンスジュニアを開催しているが、今回はどこが参加しやすいかを聞いて実施した結果、参加者がだいぶ増えた。

何かを開催する際、学校の思いだけを考えるのではなく、参加される方のニーズをしっかりと

り捉えることが重要であることをつくづく感じた。

(6) 学校運営協議会の設置について

大阪府の方針で、学校協議会を平成 30 年度から学校運営協議会に移行することになる予定である。

委員の任期については、本年度末に一旦リセットとなるので、改めて委員をお願いする場合は、お願いします。

変更内容は今回の学校運営協議会の権限が大きくなり、学校経営計画の基本方針について承認をいただくことになる。

また、個別の人事異動ではないが、学校の特色を伸ばすためにはこのような教諭が必要でないかなど人事面についても意見をいただくことになる。